

先人の想いを胸に明日を生きる。 (株式会社ドリーム生産組合)

< 法人の概要 >

所在地：徳島県三好郡東みよし町中庄 770 番地の 1

設 立：平成 25 年 1 月 （農事組合法人から移行）

資本金：130 万円 売上高：1,642 万円（平成 26 年度決算）

（うち農業：1,418 万円）

（うち売電収入：224 万円）

役 員：4 名（うち農作業従事者 2 名）

従業員数：5 名〔正規 1 名、パート 4 名〕 うち農作業従事者 5 名

経営面積：15 ha

営農作物：水稻、小麦、大麦、蕎麦、大豆、ブロッコリー、かぼちゃ、
キャベツ、その他露地野菜



耕作放棄地の再生作業



再生作業後の畑の様子

< 農業参入に至った経緯・動機 >

- ・ 地域で年々増加する遊休農地が目立つようになり、地域農業の衰退を感じる中で、また建設業を通して設置してきた農道や農業用施設が荒廃してゆく姿をみて、何とか地域の農業の活性化のお手伝いが出来ないか考えていた。
- ・ 同じような志をもつ数名の仲間を得て、ともに農業経営に参画し、農作業の効率化や施設の共同利用を行うとともに、販路の拡大を図り、「元気な地域農業」を再生して、地域に「若者の雇用の場」を提供することを目指し、土建業から農業分野に参入することにした。

<営農開始から現在まで>

- ・平成21年10月、それまで活動してきた農業団体「儲かる農業にしあわ」を発展的に解消し、農事組合法人を設立。
東みよし町の認定農業者となる。
- ・平成24年末までは、水稻、小麦、大豆栽培を中心とする土地利用型農業を展開。
- ・平成24年には、徳島県の再生利用可能エネルギー実証実験に採択され、耕作放棄地を利用したソーラー発電事業に取組み、平成25年3月から売電を開始。
- ・平成25年の秋からは、それまでの水稻、小麦、大豆、野菜栽培に加え、裸大麦（ダイシモチ）栽培に着手。
- ・他にも県の飼料用米の多収性品種（あきだわら）、酒造用加工米（キヌヒカリ）の栽培に取り組む。
- ・平成26年度には、国の“農の雇用事業”の採択を受け、新規就農者1名（大卒）を雇用。
- ・栽培面積は、組合発足当初の10haから平成26年秋の時点で18haに拡大するも、営農効率の悪い圃場も多いことから、作業効率の悪い圃場等を返却するなど整理し、現在に至る。

<今後の農業経営の展開方向>

- 1 土地利用型農業の今後について
 - ・発足当初、他人様の大切な農地をお借りするので、あまり営農効率（圃場の形態、工作機械の運搬経路、用水の利便性、用水の経済性）を考えずに作業受託してきたが、今後は、事前に十分調査して効率の良い圃場を受託する。
 - ・米価の下落や補助金の減額等を考慮して水稻以外の作物への転換を行うとともに、圃場を年間を通して活用できるよう作付計画ををし、農作業の平準化を図る。
- 2 「雇用の場」から、就業する人の「終生の生活の場」へ
 - ・キーワードは、「若い仲間が集う農業」、「自然に触れ合う農業」、「食っていける農業」。
 - ・「楽しい農業経営」を目指したい。そこに働く人が楽しければ、回りからも人が寄ってくる。
 - ・時間を大切にして、ワークライフバランス（仕事と個人の時間も大切に）を考えた働き方を実践。
- 3 設備の近代化、機械化
 - ・重労働と思われる農作業を機械化し、肉体労働の軽減化を図る。
 - ・作業効率の良い機械を導入し、就労時間の短縮を図る。
- 4 IT活用
 - ・圃場作付け管理、肥培管理、防除履歴管理、圃場土質管理にITを積極的に活用する。

＜今後農業参入予定の法人へのアドバイス＞

- 1 今のところ、いろいろと試行錯誤をする中での経営であるが、「いつかの成功を」と希望を胸に頑張っているところ。
- 2 農政がどう変わろうと、補助金等に振り回されない「足腰の強い農業」を目指そうという覚悟が必要。
- 3 「農業を守ること」が「地域を守ることに繋がる」ことにやりがいを見出して共に頑張ろう。
- 4 「若者に魅力のある農業、余暇を使える農業、やりがいのある農業」の実践が必要。
“言うは易し、されど行うは難し”・・・頑張ってもう一仕事！



冬の慰労会で食べた自家製お蕎麦、
おいしかったですよ



26年産大豆収穫 乾燥色彩選別状況